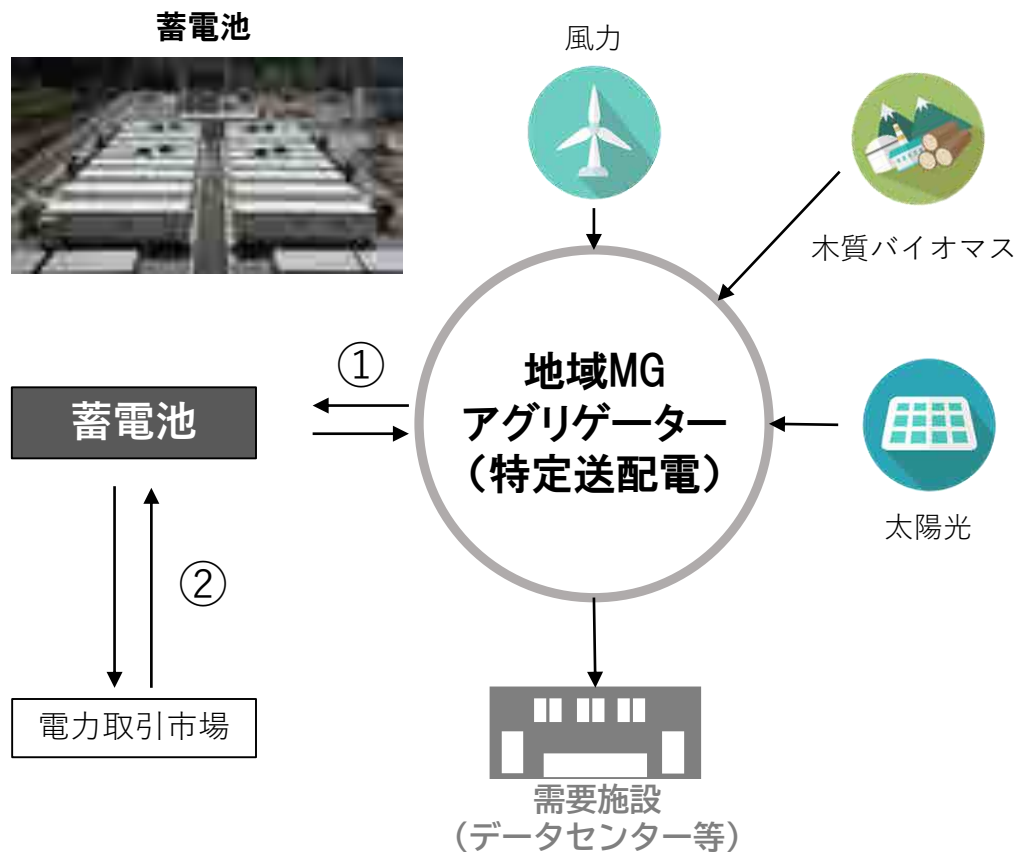


想定される大型蓄電池の活用方法

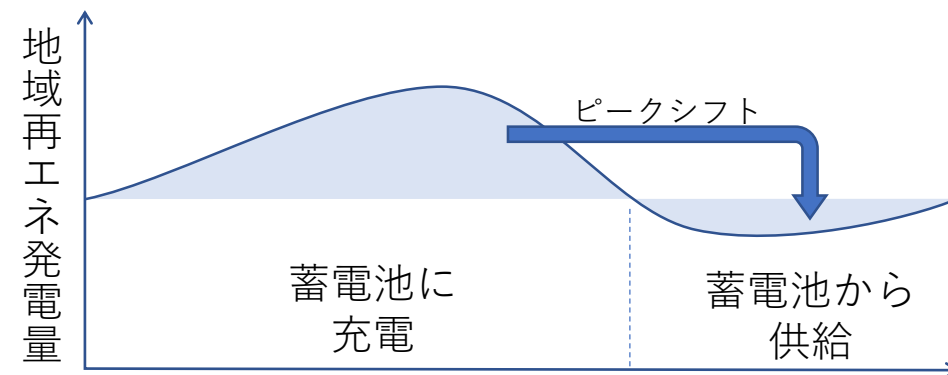
定置型蓄電池を地域マイクログリッドの調整力で活用することは、再エネ（VRE）のグリッドへの受入れにおけるピークシフト等による電力品質の向上の他、非常時の併用運転（マルチユース）を目指すことも可能となり、電力供給の信頼性は大きく向上する。

この他、電力市場での裁定取引による収益も確保しながら、非常時には自立電源としての運用を目指す。

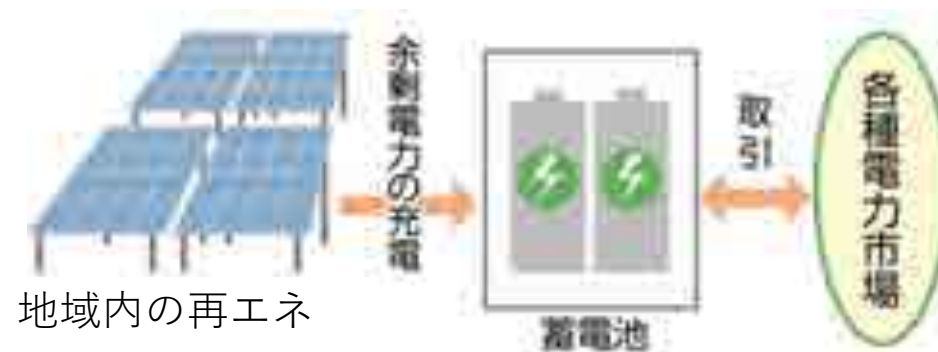
[REゾーン 地域マイクログリッド]



①地域マイクログリッド内のピークシフト



②蓄電池を介した電力市場取引



大型蓄電池の出力変動対策要件の廃止により想定される効果

✓ 再エネ導入の促進

- 再エネ電源の開発コスト（蓄電池）が圧縮されるため、更なる再エネ導入が進むことが見込まれる。また、既存の蓄電池を系統調整力として活用した場合、系統の容量不足が一部解消され、連携容量の拡大に繋がることが見込まれる。

✓ 既設置蓄電池への要件廃止は、北海道のエネルギー変革に

- 既設置の蓄電池の有効活用を図るため、系統及び地域マイクログリッドのローカルフレキシビリティとしての活用に向けた検討が進み、再エネの地産地消の実現に繋がることが見込まれる。

北海道の地理的特性を踏まえると、

- 北海道は、街と街が離れている地理的な特性上、そもそも送電に係る負担が大きい地域であるため、エネルギーの供給効率を意識した新たなまちづくりの視点を持つことが必要。
- 再エネの導入の推進は一般送配電系統への負荷が増加し、系統増強に伴う新たな設備投資が伴うが、地域マイクログリッドの構築は、この負担軽減に繋がることが見込まれる。



出力変動対策を目的に設置した蓄電池を地域MGの調整力として積極活用へ